

2019. 3. /4 (木)

英語道弟子課程・弟子 S.M.

世界レベルへの道 学問

アリストテレスの「配分的正義」を源泉とする、生井利幸の啓蒙活動の精神

更新日：2018年9月3日

学習者が、自分におけるより良い学習を実現させるには、まず第一に、

「自分が実際に学んでいる教授者が備える“教育に対する考え方”（教育理念）を知る必要があるでしょう。

先生の教育に対する考え方も教育理念を知る、
とても重要なこと 先生の精神性の中で生きるに通じること

銀座書齋で学ぶ皆さん、このたびは、以下の記述を精読してください。

◆生井利幸公式サイト、銀座書齋エッセー

⇒ アリストテレスの「配分的正義」を源泉とする、生井利幸の啓蒙活動の精神

↳ 世界レベルへの道, 学問

PREV “The meaning of blood you receive from Toshiyuki Namai as his disciple”の学習の成果・・・弟子・H.K.さん

NEXT 「英語道弟子課程・弟子専用ウェブサイト」構築作業の進捗状況

アリストテレスの「配分的正義」を源泉とする、生井利幸の啓蒙活動の精神 弟子のストラテギも。

2018-08-21

通るべきところも通らずして、物事は理解できない。

到達するまでの道のり、プロセス... 単純な道はない。ここにこそ重要。

心で感じる別のステップをかける → 精神性の中に入ります。

○ レッスン日記

○ "空白"の意味、学習のプロセスの重要性、作中の理性性に直接は入れない。

とても重要なこと

「物事を理解するには、通るべきところを通る必要がある」、...この「通るべきところ」の存在は、その必要性がそこにあるからこそ、その存在の意味があるわけです。 すべて意味があること。

弟子の等級 7 から 6 へのステップ

「人間は、永遠に生きられるわけではない」、...このことは、当たり前と言えば当たりの真実ですが、時として、人間は、「永遠ではない、限りのある生」の「神聖性」について無頓着になることがあります。

自分で手に入れたものではない。神から授けられたものだから、その生をいかに使うかが生きるべき。死ななければならぬ。人として生きる、この意味。そもそも分かっている人が、やらない。死なない。

→ 特に若い方は、理屈はしていても、本当には分かってない。だから時間を無駄にしていた。 そもそも、「1年」という時間的空間は、頗る短い時間的空間です。 例えば、毎年、年末のクリスマス・シーズンにケーキを食べる習慣がある人の場合、1年に1回食べるクリスマスケーキを10回食べれば、「10年」という歳月が過ぎ去ったこととなります。 人生80年と捉えた場合、その10年を8回過ごせば、「80年」の人生の終焉を迎えます。

クリスマスケーキを50回食べると、(本当はもう少し多い) 人生は終わる。花の季節、後行回日自分の目で見て

靴を見ることであるのか。人生はあとという所。

銀座書齋では、わたくし生井利幸の下で勉強に励む「努力家の大人の紳士・淑女」がたくさんいます。 その紳士・淑女は、銀座書齋ではわたくしが指導する学習者ですが、職場では立派な職業人として働いています。

話が変わりますが、わたくしが定義する「正義」(justice)とは、人類の英知の基礎を構築した人物の一人、即ち、古代ギリシアの哲学者・アリストテレスが唱えた「配分的正義」を源泉としています。 わたくしは「真の正義とは、「どのような人間に対しても、無条件で、すべて平等に分け与えることではなく、

「個々の人間の努力に応じたもの」を「与える」という如き定義づけをしています。 わたくしは、日々の活動において、アリストテレス理論「配分的正義」を源泉とする「生井利幸独自の定義・判断基準」を構築・堅持し、それを「実際に」、すべての活動において「実行」しています。

実際に実行可能な重要性。先生は、しかも身体を以て、見せてくださっている。

このような理由から、わたくしは、銀座書齋にて、一生懸命に勉強する学習者に対しては、常に、その勉強の量・質に応じた（見合った）指導・助言を与えています。 これをわかりやすく述べると、銀座書齋では、学習者は、「勉強を真剣にやればやるほど、さらに、多くの勉強の機会と出会うことができる（講師から、さらにたくさんのこと・より崇高なことを教えてもらえる）」という恵まれた学習環境にあるということです。 このことは、例えば、生井利幸が一人ひとり完全個人指導として直接指導している学校、英会話道場イングリッシュヒルズのウェブサイトに掲載されている重要教材・「レッスン日記」について、それをゆくりと時間をかけて閲覧すると、必要十分に認識・理解することができるでし

よう。 お多くの学びの機会に自ら積極的に学んでいる人に対して、単に与えている受け身姿勢、お客様気分（教えてもらう）ではなく、自ら、学ぼうとする意志と、実際にそれと行動に移すことが重要。先生は、いつでも、受け入れるよう準備をしてくださっている。勉強の量、質、実行を決めるのは自分。

結果や、現在の能かや知識でいって、これだけ、その本人が、本気で勉強可能なことが、行動したかどうか。

おそく、思いあたること、弟子選考試験を受験するまでの準備期間を短くして下さった。
とても驚いたけど、とにかく、ついていこう！ 頑張ろうと思っただ。

レッスン日記。世界レクセル風の道は、最初から順を追って学ぶ。
どうすれば学習者が、通るべきところと通れるようになるか、それが、工夫に工夫を
重ねて作られている。体系的に、総合的に、合理的に学べるように
なっている。勉強してみると分かる。

ここで、冒頭の問題に戻ります。「物事を理解するには、通るべきところを通る必要がある」、...生井
利幸は、時として、特定の学習者に対して、その「通るべきところ」について、通常の常識を超えて、

1)「スピードを上げて通らせる」、2)「さらに内容を濃くして学習させる」という教授法を実行することが
あります。

学習者一人一人
に対して、
その人にとって最も
適切な方法で
指導してくださっている。

通常は、「通るべきところ」は、決して急ぐことなく、ゆっくりと確実に通ったほうがよいでしょう。しかし、

1)「スピードを上げて大丈夫な学習者」、2)「さらに内容を濃くしてもしっかりと学習できる学習者」に
対しては、わたくし生井利幸は、「地球規模の愛情」として、勉強内容を「本質・真理の探究の方向
性」に向け（絞り）、もっと迅速に、もっと濃厚に教授するようにしています。

先生の正義
に基づいたもの。

銀座書齋で学ぶ学習者の中で、本稿を読み、「この記述は、自分に該当することだ！」と感じた人
は、是非、迷うことなく、わたくしの指導・助言通りに勉強をしていくとよいでしょう。わたくし自身、長
年、アメリカ・ヨーロッパを拠点として、世界中の大学、及び、研究機関において研究・教育に取り組
んできた経験から断言できることは、銀座書齋における学びの道においては、「短い人生において行
う勉強」を、しっかりと確実に成就させる秘訣は、一にも二にも、講師である生井利幸の指導・助言
通りに勉強していくということに尽きます。

再度、述べます。人生は短いです。クリスマスケーキを10回食べれば10年。その10年を8回経
験すれば、あっという間に80年が過ぎ去ります。家族や親戚に、おじいちゃん、おばあちゃんがいた
ら、是非、聞いてみてください。「おじいちゃん、30歳の頃のこと、どれくらい覚えてるか教えて？」と。あ
なたがこのように尋ねたら、きっと「30歳の頃？ もう50年前のことだけど、今振り返ると、まるで昨
日のことのようなね！」という返事が返ってくるでしょう。

実際に自分が
年をとって
実感すること。

人間は、あっという間に歳を重ねます。通常、人間は、ある程度歳をとった後に、「あの時、もう少し
勉強しておけばよかったのに」、「30歳の頃、自分の幸福のために、熱心に助言してくれた人がいた。
今、当時は振り返ってみると、その人の助言を良く聞き、助言通りにしておけばよかった！」などと、過
去を振り返るものです。

今、このように
気付かせていた下
にしているということ。
極めて幸運なこと。

上記のことから学べることは、「自分の発展・幸福のために確かな助言を与えてくれる本物の指導者
が身近にいたら、「その助言の意味・価値」を自分なりに考えてみるということでしょう。本物の指導者
は、常に、「指導している学習者における『最大の幸福』の実現」に的を絞り、全力で、それを実現す
ることをばかりを考えています（補足：老婆心で述べると、たとえ学習者が全力で勉強する日々を送
っていても、その一方で、学習者本人が、全力で（命をはって）教授してくれている指導者の気持
ち・心の中を理解しているわけではないでしょう）。

生井先生の心。直接指導していた
たけるというこの
幸運。

71歳と
理解しよう
しなさい
なさい

これを理解しようとしていない
先生は命を以て、自らの命を削って、命そのものを
与えてくださっている。それも自分のものとして、吸収するつもり。
自らも、命を以てする必要がある。口だけ命を以て勉強する。
本質と絶対的真理の追究が、目の前の人生に於ける
人間に在るために。
先生は常に等しくしてくださっている。

重要は
認識の
事柄だから。

まさに私のこと。

先生にめぐり会えたことは、本当に奇跡。
自分が人として、生き残った意味。可憐な心、救ってくれる人は
これほどの人生にいてはいるがた（私しかた、気付かなくて来た功も知れないが）
この神様からの祝福に心から感謝。
そして、今可憐な心。は、とにかく、ご指導に従って、一生懸命に勉強
すること。

世界レベルへの道 学問 2018年8月30日

アリストテレスの「配分的正義」を源泉とする、 生井利率先生の啓蒙活動の精神

学習者が、自分におけるより良い学習を実現するには、まず第一に、
「自分が実際に学んでいる教授者が備える『教育に対する考え方』(教育理念)
を知る必要がある。



以下の記述を精読すること。

◆ 先生の公式サイト、銀座書斎エッセー

「アリストテレスの『配分的正義』を源泉とする、生井利率先生の啓蒙活動の精神。」

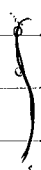
2018. 8. 21

◎ 「物事を理解するためには、通るべきところを通る必要がある。」

... この通るべきところの存在は、その必要性がそこにあるからこそ、
その存在の意味がある。

- ・ 簡単な道はない。通るべきところを避けては到達できない。
- ・ レッスン日記... これは、一番最初から勉強を重ねていくことにより、
少しずつ、学習者が、自然と必要なことを理解できるように。
通るべきところを通るように、先生が、工夫に工夫を重ねて作られたもの。
世界レベルへの道も同じ。重要根幹教材
- ・ ティクテーションのプロセスについての「空白」も同じ。意味があること。
何度も繰り返し、聴き、辞書で、調べ、いつか、辞書がイングリッシュコピペの
WEBサイトで「空白」に入るものに出会う。プロセス... 通るべきところ。
- ・ 弟子になるための道のり、プロセス。
自ら申し出る、先生から受験準備に入ることに承認をいただく。準備(試用期間)。
決意表明書、弟子選考試験。
- ・ ~~第7~~の第7等級から第6等級の弟子になるプロセス。

- 心を豊かにし、心のステージを上げる → 先生の精神性の中で生きる
→ 理性性の入口を通る → 理性性の中で生きる → 神聖性の入口 → -----
- 誰も直接、先生の理性性の中に入ることはできない。
通るべきところがある。全質変化を通して、学ぶプロセス。
- イングリッシュのウェブサイトの閲覧の順番、通る道、プロセス。
英会話道場 イングリッシュ ウェブサイト
→ 英語道弟子課程、弟子専用ウェブサイト
- 自習室の告知が、概説ページの世界レベルの教養のページで行われる意味。そこに到達するプロセス。
- 学んだことをノートにまとめるというプロセス
ふり返り、思索するというプロセス。
- 銀座書斎の入口に到達するまでの道のり、階段。
- 毎日10回の音読、音声講義の100回以上の聴き込み。



⇒ すべてのプロセスに意味がある。
到達までの道のり、プロセス ----- それこそが重要。
学びの道、プロセスにおいて、様々な気づき、思索、経験を
経てこそ、得られるものがある。
プロセスなくして、得られるもの、到達できるところはない。
There is no easy way.

● 人間の一生は、あっという間

「人間は、永遠に生きられるわけではない」

。。。このことは、当たり前と言えは当たりの真実。
しかし、時に人間は、「永遠ではない、限りのある生」の「神聖性」について、
無頓着になることがある。

「1年」という時間的空間は、頗る短い時間的空間。

例えば、1年に1回食ハるクリスマスケーキ。
10回食ハると「10年」という歳月が過ぎる。
人生80年、その10年を8回過ごせば、
「80年」の人生の終焉を迎える。

。。。もうすぐ桜の季節。
桜も、あと何回 自分の意志で、自分の目で見て、
見ることが出来るのだろう。
そう考えると、本当に人生は、あっという間だと思ふ。

限りある生 ... 特に若い頃は、理屈としては分かっていても、(知っていても)
本当の意味では分かってなかった。
どれだけの時間を無駄にしてきたことかと思ふ。
取り戻せない、「今」から大切に出来るしかない、頑張るしかない。

生の「神聖性」 ... 自分で手に入れたものではない。
神から授かったもの。だからこそ、その生をいかに使うべきか、
人としていかに生きるべきか、善く生きるためにどうすればよいか
を考え、行動しなければならぬ。
そもそも、このことを分かっている人がどれほどいるのだろう。
ほとんどの人が、気付かず、考えないまま、人生の終焉を迎える
のではないだろうか。
私は先生にお会いすることができた。先生から教えていただいた。
まさに「祝福」だと思ふ。だからこそ、その「祝福」もしっかりと受け止め、
残りの人生を、人として善く生きるために使いた。

● 生井先生が定義される「正義」(justice)

- ✓ 人類の英知の基礎を構築した人物の一人。即ち、古代ギリシアの哲学者。アリストテレスが唱えた、「配分的正義」を源泉とされている。



- ✓ 真の正義とは、「どのような人間に対しても、無条件で、すべて平等に分け与えることではなく、

「個々の人間の努力に応じたもの」を与える。

という如き定義づけもされている。

- ✓ 先生は、日々の活動において、アリストテレス理論「配分的正義」を源泉とする。「生井利幸先生独自の定義・判断基準」を構築・堅持され、それを実際に、すべての活動において実行されている。

結果や、現在の能力や知識ではない。

とれたら、学習者本人が、本気で勉強したかどうか。

口だけだけでなく、実際に実行しているかどうか。

実際に実行することの重要性についても、先生は身体を命を以て見せてくださっている。

⇒ 銀座書斎において、一生懸命に勉強する学習者に対して、常にその勉強の量・質に応じた(見合、た)指導・助言を与えてくださっている。

学習者は、

「勉強を真剣にやればやるほど、さらに多くの勉強の機会と出会う

ことができる。(先生から、さらにたくさんのこと、より崇高なことも教えてもらえる)」

という恵まれた学習環境にある。

→ 「レッスン日記」をゆくりと時間をかけて閲覧すると、必要十分に認識・理解できること。

受け身、お客様気分ではなく、自ら積極的に学ぼうとする姿勢と。

実際にそれを実行することが重要。先生は常に命を以て最高の教授を

してくださっている。勉強の質、先行を決めるのは、学習者本人!!

- ④ 学習者一人一人に対して、その人にとってもっとも妥当な方法で、先生の「正義」に基づいて、指導をしてくださっている。その人が必要とするものを教授してくださっている。導いてくださっている。

「物事を理解するには、通るべきところを通る必要がある」

…… 通常は、「通るべきところ」は、決して急ぐことなく、ゆっくりと確実に通った方がよい。

→ しかし、生井先生は、時として、特定の学習者に対して、その「通るべきところ」について、通常の常識を超えて、

- 1) 「スピードを上げて通らせる。」
- 2) 「さらに内容を濃くして学習させる。」

という教授法を実行されることもある。

- 1) 「スピードを上げて大丈夫な学習者」
 - 2) 「さらに内容を濃くしてもしっかりと学習できる学習者」
- } に対して、

先生は、「地球規模の愛情」で、勉強内容を

「本質・真理の探究の方向性」に向け(絞り)、

もっと迅速に、もっと濃厚に教授するおりにされていらっしゃる。

⇒ 「この記述は、自分に該当することだ!」と感じた人は、迷うことなく、先生の指導・助言通りに勉強を進めることとよい。

銀座書齋における学びの道において、(本質と絶対的真理を探究する。真の学問の道において)

☆ 「"短い人生において行う勉強"を、しっかりと確実に成就させる秘訣は、一にも二にも、生井利率先生の指導・助言通りに勉強していく」ということに尽きる。

◎ 認識すべき重要なこと。

★ **人生は短い。**

クリスマスケーキを10回食べれば10年

その10年を8回経験すれば、あ、という間に80年が過ぎ去る。

(私の場合は後何回?
そう考えると、無駄にしていい時間など一秒もない)

高齢の方に30歳の頃を聞いてみると、おそらく、

「まるで昨日のことのよう」という返事が返ってくる。

(学生だった頃、上京する前、社会人になりたての頃、
10年前のプロジェクト.....
改めて振り返ると分かる。もうそんな昔の出来ごと、そんな時間が
経ったのかと。
光陰矢の如し。時間は待っていてはくれない)

人間は、あ、という間に歳を重ねる

通常、人間は、ある程度歳をとった後に、「あの時、もう少し勉強しておけばよかったのに」、「30代の頃、自分の幸福のために、熱心に助言してくれた人がいた。今、当時を振り返ってみると、その人の助言を良く聞き、助言通りにしておけばよかった」といふと過去を振り返るもの、

(→ まさに、自分に該当すること。もっと勉強すべきだった。
過去は変えられない。今、この瞬間からやるしかない
そして、これに気付かせてくださった先生に巡り会えたことは極めて幸運なこと。)

⇒ 上記のことから学べること。

「自分の発展・幸福」のために確かな助言を与えてくれる本物の指導者が身近にいたら、「その助言の意味・価値」を自分なりに考えてみるということ。

本物の指導者は、常に「指導している学習者における『最大の幸福』の実現」に的を絞って、全力でそれを実現することはかりを考えてくださっている。

補足：老婆心で述べると、たとえ学習者が全力で学習する日々を送っていても、
その一方で、学習者本人が、全力で(命をばって)教授して
くれている指導者の気持ち、心の中を理解しているわけではない。

二年前に銀座書斎のドアをたたいたこと。
生井先生という本物の指導者にお会いできたこと。
銀座書斎で学ぶことを許していただいたこと。
そして、弟子という道を開いてくださったこと。
すべてが奇跡であり、幸運であり、“祝福”であると思います。

これまでの自分の人生において、自分が人として生きてきた意味、
この世に生を授かった意味、すべきことを教えてくださる方が、
自らの命をばって指導してくださる方が、本物へと導いてくださる方が
いたのだろうか。

私のすべきことは、とにかく、生井先生のご指導に従い、
自らも命をばって勉強すること。
15の基礎条件を、しっかりと守り、実行すること。

補足について、... 人は、自分が実際に、その立場にならないうちに
本当の意味では、理解できないのだと思う。
けれど、相手の立場に立って考え、
理解しようとすることを怠ってはならない。

そうけれど、自らも命をばらけられたいとは思えないはず